

## 第72回北海道高等学校PTA連合会後志大会 参加報告

北海道札幌東高等学校PTA会長 街道 美恵

令和5年6月9日、10日の2日間にわたり、小樽市で開催された第72回北海道高等学校PTA連合会後志大会に、川口副会長、曽根副会長並びに石橋副校長と参加してまいりました。

大会主題「新時代を支える若者を共に支えよう～本音の語らいから生まれるPTAの活力～」のもと、全道から600人を超える方々が参集し、講演や分科会を通じてPTA活動に対する理解を一層深めました。

講演並びに分科会の概要を取りまとめましたので、参考にいただければ幸いです。



1日目 講演「漫画と絵本で描いた“食べること、生きること”」  
講師 漫画家 魚戸 おさむ 氏



テレビドラマ化された『家裁の人』などで知られる魚戸おさむ先生ですが、『食卓の向こう側 別冊 キャンパス編』（西日本新聞ブックレット）をきっかけに「食」に興味を持ったことや、大学の先生と協働して調査したこと、ホスピス病棟の医師や小学校の校長先生の取組を独自に取材したことをご紹介されながら、食から見える家庭教育について話されました。

魚戸先生は、大学生の食生活を大学生自身が撮影して記録した数千枚の写真の中から、スナック菓子だけの食事、菓子パンと清涼飲料水だけの食事、おかずだけの食事、場合によっては欠食といった様子の写真をプロジェクターで投影され、また医師がホスピス病棟で「命のスープ」と呼ばれる特製スープを患者に提供すると表情が和らぎ元気を取り戻す様子を目の当たりされた経験を語られました。「食事をつくった経験がなく、食が家族や人の関わり作り、命をつなぐものであることを忘れて大人が増えている」とは魚戸先生の言葉です。「お弁当の日」に初めて取り組んだ小学校児童の変化、先輩から後輩に引き継がれていく様子、その小学校を卒業し現在は母親となった大人の表情をスクリーンで紹介され、「食べ物か体を育てる、食べ方が心を育てる」を実感すること、食事をつくってもらう人からつくってあげられる人へと成長すること、「楽しい子育てができる子どもを育てる」ことが一番の少子化対策ではないかという魚戸先生のお話を受けて、あらためて食の大切さを学ぶことができました。

2日目は4つの分科会が開催されました。それぞれのテーマに沿って、先進的な取組を学んだり、活動の課題を共有したりするなどするものです。私たちは第4分科会に参加しました。

2日目 第4分科会（家庭教育） 小樽市民センター  
テーマ「大人（保護者、地域の人々）と子どもの望ましいコミュニケーションについて」

ファシリテーターを務める加澤雅裕氏（北海道情報大学特任講師）の進行のもと、笹谷純代氏（元小樽潮陵高等学校PTA会長）による講話を拝聴した後、参加者が4～5名からなるグループに分かれ、2つのテーマについてディスカッションを行いました。

初めに、「親子のよりよいコミュニケーションの在り方」については、子どもは答えを自分の中に持っていることが多いことから、子どもと親である自分とを俯瞰し、話しかけてくる子どもの心情を推し量り、求められない助言は控えめに、傾聴と共感に努め、注意する場合には核心を突いた端的な表現がよいのではないかと意見が多く聞かれました。

次に、「広く将来の社会生活に必要なコミュニケーション能力の育て方」については、方法よりも本質に意識を払うべきであり、相手の主張や立場を理解する力、自分の考えや状況を伝える力、両者の主張や考えが衝突する場合にはそれを解消して共通の課題を解決するために調整する力が大事であり、それは教室から出てリアルな地域社会との関わりの中で、認められたり壁にぶつかったりして実践的に体得していくものではないか、その第一歩が親子のコミュニケーションではないか、という趣旨の考えが多数述べられました。

